

### 1. 事業の必要性・概要

水環境に関する取組を進め、また将来の取組を担う人材を育成するためには、水環境とのふれあいや地域の水環境再生の取組を通じて、水の重要性や地域の水環境への理解を深めることにより、保全活動の普及促進を図ることが必要である。

このため、新しい社会と水環境を創る地域力育成事業において、東日本大震災で甚大な被害を受けた被災地域の豊かな水環境や、シンボルとなる水辺の生物等の復活を支援することを通じて、地域の取組を牽引する人材や団体、連携グループの形成等の地域力の育成を図るとともに、その成果を全国に広げていく。

また、ホテルや水辺でくらす生きものや水辺の自然とふれ合い、調査・保全に取り組み、水や生きものづくりのつながりを考え、活動し、守っていく「こどもホタレンジャー」活動の報告を募集し、地域に根ざした活動やユニークな活動を表彰するとともに、指導者研修を実施し、こどもたちを中心とした環境保全活動と環境教育を推進する。

### 2. 事業計画（業務内容）

実施項目	H24	H25	H26
新しい社会と水環境を創る地域力育成事業 取組の支援（公募） 取組の検証 全国へ広めるための仕組みの検討・構築			
こどもホタレンジャー事業			

### 3. 施策の効果

水環境への関心を喚起し、日常生活での水質汚濁防止など水環境保全活動を推進するとともに、被災地域における水環境を創る地域力の育成を全国に広げ、保全活動を通じた豊かな水環境の形成を図る。

# 新しい社会と水環境を創る地域力育成事業

震災前

平成23年3月11日

平成24年度～

## 優れた水環境と活発な活動の地域

### ～美しく豊かな水環境～

(快水浴場百選)

被災県で14ヶ所選定。東日本で“特選”に選ばれたのは「浄土ヶ浜」「小田の浜」のみ。九州南部・沖縄以外では最高評価。

特選・・・百選のうち特に優れた12ヶ所。

(浄土ヶ浜海水浴場)



(小田の浜海水浴場)

### ～活発な水環境取組～

(全国水生生物調査)

毎年7万人以上が参加する調査で最も盛んな地域。



仙台向山高等学校



石巻市立北上中学校

(平成21年度)

- 1位 福島県 8,623人
- 2位 岩手県 6,151人
- 14位 宮城県 1,401人

(平成22年度)

- 1位 福島県 8,710人
- 3位 岩手県 6,278人
- 18位 宮城県 1,235人



南三陸町立戸倉小学校

## 東日本大震災の発生

### - 劇的な水環境の変化 -

被災地域の海水浴場は、地盤沈下による砂浜消失、津波による施設・インフラの破壊等により再開の見込が立たず。



「百選」の砂浜 消えた 気仙沼



(震災前の大谷海水浴場)



(震災後の大谷海水浴場)

### - 活動・取組を実施困難な状況 -

被災地域では震災影響のため、平成23年度の全国水生生物調査は、実施が困難な状況。また、過去の調査で確認された出現生物種の喪失が予測される。

## 新しい「社会」「水環境」を創る東北の地域力

### ～背景～

東日本大震災を契機に、安心・安全な生活を営む上で、水、大気、土壌の重要性が再認識されるとともに、新しいライフスタイルや地域社会の在り方が再考。

水は、地域の環境を直に実感しやすい場であり、住民、企業、学校、自治体等が地域の水環境を理解・評価し、地域にあった取組を行っていくことが重要。

### ～目指すもの～

地域が復興に合わせ、自ら環境の再生を実感でき、地域特性(地域の誇りやシンボルとなる水環境等)に応じた継続的な保全・改善の取組み、枠組みの育成  
被災地域での取組の全国的な波及・展開



### <新しい社会と水環境を創る地域力育成事業>

- 被災地の地域社会・団体が自ら主導し行う取組の公募 [平成24～26年度]
- 他地域の団体等が主体となり被災地域の地域社会を支援・指導する取組の公募 [平成24～26年度]
- 取組の検証 [平成24～26年度]
- 全国展開を図る仕組み構築 [平成25～26年度]